

平成30年度 日南市立鶯戸小中学校 自己評価及び学校関係者評価の報告

4段階評価： 4達成した 3ほぼ達成した 2やや改善を要する 1改善を要する

評価項目	評価指標	学校の自己評価コメント	自己 評価	外部 評価	外部評価コメント
【知】 確かな学力を身に付けさせます。	1 基礎・基本を確実に習得させます。	<ul style="list-style-type: none"> 県教育委員会が推進する「授業改善4+4」に焦点を当てた研究を推進した。 1人2回の授業公開を行い、授業力向上に努めた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒のアンケートの結果、4段階評価で4に近い項目がほとんどである。この結果は、先生方の指導の成果であり、子どもたちに学習する雰囲気を作っている。少人数ならではの丁寧な指導がなされている。 教師の評価が低くなっているのは自分に厳しく評価した結果であると思う。 県教育委員会が進める「授業改善4+4」に焦点を当てた研究を推進したことは評価できる。相互授業参観などとおして、先生方の指導力や子どもたちの学力の向上につながるものである。 市塾への参加が多いことは評価できる。鶯戸地区の生徒は高校進学後に他の地区の生徒とコミュニケーションがうまく取れず困り感を持つことがあるので、市塾などに積極的に参加し、他校の生徒と交流を深めておくことよい。 親子のコミュニケーションが大切である。子どもたちが学校での出来事を話すことで保護者は学校の様子が分かり、子どもたちは学校で学んだことを復習する機会となる。 NIE活動により新聞等に作品が掲載されることが多く、子どもたちの活躍を地域の方々も感心し、喜んでいる。
	2 家庭学習の習慣化を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 当該学年の目標に見合う内容や量に取り組むようにした。 取組状況が今一步の児童生徒には、保護者と連携を図りながら指導していく。 			
	3 英語・漢字・数学等各種検定試験に積極的に挑戦させます。	<ul style="list-style-type: none"> 補助金が減ったこともあり、受検者、検定実施回数が減った。 受検した子どもたちは目標を達成することができた。 			
	4 ICTを活用した授業の実践を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用が日常的に行われている。 ICT活用がさらに充実するよう、環境整備や研修を工夫する。 			
	5 読書活動を積極的に推進します。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の読書活動への取組が今一步だった。 図書司書や市立図書館等との連携を図り、読書量を増やし良書に触れさせる。 			
	6 市主催の市塾などへの参加を促し学ぶ機会を提供します。	<ul style="list-style-type: none"> 市塾への呼びかけを促し、中学部生徒を中心に積極的に参加することができた。 小学部児童の中には市の合唱団に参加する者のいた。 			
【徳】 豊かな人間性を育てます。	1 道徳教育を充実させます。	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間を完全実施するとともに、各学級担任が工夫して実践できた。 道徳の時間に限らず、他の教科等や行事をとおし心の教育を充実していく。 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 9年生が行った近隣保育所との交流活動の様子を参観したが、小さい子どもたちに優しく接していた。普段の挨拶の様子も、他の地区の中学生よりも大変気持ちの良い挨拶をしていると感じる。心の温かい児童生徒が育っている。 家庭学習や手伝いなど家庭に関する項目がやや低いようだが、子どもたちも保護者も習い事などがあって忙しいことが原因ではないか。 地域の伝統を大切にしている児童生徒が多い。神楽や地域の祭りに積極的に参加していることが理由の一つである。地域の伝統や異年齢の人々にふれることで、地域を大切にする心が育つ。地域の方々も温かく子どもたちのことを見守っており、地域の方々から褒められることで子どもたちは自信をつける。
	2 体験的活動を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の清掃ボランティアやあいさつ運動など積極的に児童生徒が取り組んだ。 いきいきふれあいサロンや花いっぱい運動など地域の方々ともふれあう機会がもてた。 			
	3 進路指導の充実を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 9年生の進路について、個々の目標達成に向け、丁寧な指導を行うことができた。 全学年でキャリア教育の充実をさらに図る必要がある。 			
	4 教育相談体制の充実に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒及び保護者からの相談には丁寧に対応し、問題の早期解決に当たった。 必要に応じて市教育委員会やSSW(スクールソーシャルワーカー)など関係機関の連携を図った。 			
【実践】 自主的な健康づくり	1 健康教育を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> 運動会、新体力テスト、持久走大会、縄跳び旬間などの意図的・計画的な指導を行った。 性教育や薬物乱用教室など外部講師を招いた指導など工夫して取り組んだ。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 就寝時間が遅いなど生活習慣が乱れている児童生徒が見られるのは、携帯電話・スマートフォンやゲームが影響しているのではないかと感じる。子どもたちの多くがそれらを持っている時代なので「持たせない指導」ではなく「正しい使い方の指導」を行う必要であると考える。学校・保護者が「正しい使い方の指導」ができるような取組(研修会など)を計画的に行ってほしい。 運動会は保護者や地域の方々も巻き込み、鶯戸小中学校ならではの活動が行われている。 中学生の部活動の活躍がめざましく、地域の方々も期待している。
	2 健康に対する自己管理能力を高めます。	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上プランを策定し、特に課題が見られた項目を強化した。 就寝時間が遅いなど生活習慣が乱れている児童生徒が見られる。 			
	3 食に関する指導を充実させます。	<ul style="list-style-type: none"> 「弁当の日」の取組が定着し、親子で食に関する教育を考える機会となっている。 栄養教諭の指導で、栄養のバランスについて意識を高めることができた。 			
	4 部活動の振興に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> 県大会出場や選抜選手に選ばれる生徒がいるなど活気が出ている。 県の方針に従って、リフレッシュデー(部活動休養日)を設けている。 			
【環境】 安全な学校にします。 教育環境を整備	1 安全な学校にします。	<ul style="list-style-type: none"> 地震や津波など様々な場合を想定した避難訓練を計画し、実践的な訓練を行った。 月に1度安全点検を行い、市教育委員会に報告・依頼し、迅速に対応した。 低学年は、毎日下校指導を行っている。 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> 年3回の避難訓練の中で、地震や津波については、想定(サーフィン活動時・清掃時など)を変えながら実施しており、地域の状況に合わせた訓練になっている。各地区ごとに避難方法や避難状況が違うので地区ごとに避難方法を考えさせる必要がある。自宅から避難経路方法について考えさせることが重要である。
	2 校舎内外の美化に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> 地震や津波など様々な場合を想定した避難訓練を計画し、実践的な訓練を行った。 月に1度安全点検を行い、市教育委員会に報告・依頼し、迅速に対応した。 低学年は、毎日下校指導を行っている。 			
	3 事故のない環境を作ります。	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故など大きな事故に遭う児童生徒はいなかった。 骨折や捻挫のけがをする児童生徒が見られた。 			

1 本年度の取組について

「分かる、できるまで」を合言葉に主題研究で授業改善に取り組み、すべての教員が2度の授業公開を行い授業力の向上を図った。いきいきふれあいサロンや花いっぱい運動など地域の方々に学びながら、児童生徒は豊かな心を育てることができた。体力向上や弁当の日の取組などとおし、児童生徒や保護者の健康の保持増進への意識を高めることができた。津波や地震発生時など多様な場合を想定したの避難訓練を実施し防災意識を高めるとともに、交通安全などの安全指導を日常的に行った。月に1度の安全点検を実施し、中学部校舎の軒や庇の補修など市教育委員会に報告・依頼し、危険箇所などの整備に迅速に対応した。

2 次年度への改善に向けて

「授業改善4+4」に焦点を当てた実践的な研究に継続して取り組み、相互授業参観等計画的に実施し授業力の向上を図る。特別の教科道徳や総合的な学習の時間の年間指導計画などを見直し、道徳教育やキャリア教育における関連的指導として充実を図る。また、様々な状況を想定した避難訓練を実施し、児童生徒の安全確保や防災教育の充実に努める。基本的な生活習慣の育成や生徒指導の充実を図り、特にいじめや不登校の問題については関係機関等との連携を図りながら組織的に対応する。